

令和3年度(2021年度)
厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
分担研究報告書

拠点病院集中型のHIV診療から、地域分散型のHIV患者の医療・介護体制の構築
患者が地域の保険薬局を選んだ時に対応できるシステム作りに関する研究

研究分担者 鈴木 貴明 千葉大学医学部附属病院 薬剤部 准教授・副薬剤部長

研究要旨：処方箋に基づき薬剤を調剤・交付する役割のある保険薬局において、地域連携を図る際の課題を明らかにするとともに、実践可能なモデルや方法を提案することの必要性を導き出すことが出来た。

A. 研究目的

強力な抗ウイルス療法(ART:Anti Retro virus Therapy)により、HIV/AIDSは長期生存が可能な疾患となった。この結果、HIV感染症患者の高齢化が進み、HIV感染症患者に対する医療も多様化、そして長期化してきている。現在はHIV拠点病院集中型の診療を行っているため、抗HIV薬の調剤はHIV診療拠点病院周辺の保険薬局を中心に行われている。しかし、HIV感染症患者の多様化した課題に対応するためには、HIV拠点病院と地域の医療機関との連携を重視した診療体制を構築することが必要になってきている。したがって今後、地域連携が推進された場合、患者が地域の保険薬局での調剤を希望することも想定される。このような場合にすべての保険薬局がスムーズに抗HIV薬の調剤および服薬指導に対応できる必要がある。

本研究ではR3年度、抗HIV薬の処方箋を応需している保険薬局薬剤師を対象としたセミナーを開催し、患者へ服薬指導する際のポイントなどを情報提供することを目的とした。

B. 研究方法

2021年10月に「保険薬局の役割と地域連携セミナー～長期療養を見据えた抗HIV薬の服薬指導～」をWEB開催した。セミナーは、本研究代表者の猪狩医師からHIV感染症と治療薬の特徴について、本研究協力者の築地薬剤師から抗HIV薬指導重点項目についての2講演で構成した。参加の対象は、千葉大学医学部附属病院感染症内科からの処方箋を応需している33薬局に勤務する薬剤師とした。セミナー開催前後に参加者へアンケートを実施し、「HIV治療について理解している」「抗HIV薬の服薬指導に自信がある」「HIV感染者へ服薬指導することに抵抗がある」の3項目に対する意識の変化を5段階評価で調査した。

アンケートは匿名性が保証されること、回答されなくても不利益を被らないこと、研究目的以外の使用をしないこと、結果はエイズ関連学会や報告書などで報告されることを文書で説明し、同意を得たうえで回答を得た。

C. 研究結果

セミナーへは、12施設より18名の参加があった。セミナー開催前後のアンケートにはのべ23名からの回答が得られた。このうちセミナー開催前後、両方の回答があった9名のアンケート結果(数値：平均ポイント±標準偏差)は、「HIV治療について理解している(1全く理解していない～5よく理解している)」は開催前2.6±0.7、開催後2.9±0.9、「抗HIV薬の服薬指導に自信がある(1全く自信がない～5十分に自信がある)」は開催前1.8±0.7、開催後2.7±1.0、「HIV感染者へ服薬指導することに抵抗がある(1大いに抵抗がある～5全く抵抗はない)」は開催前3.8±1.0、開催後4.0±0.9であった(図)。

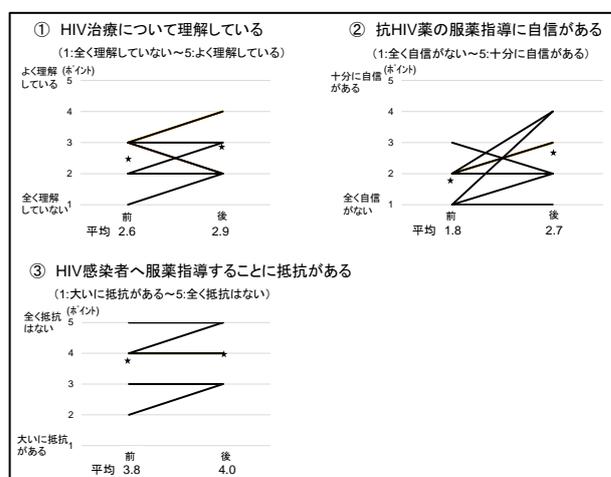


図 セミナー前後アンケート結果 (n = 9)

参加者からは、「HIV 患者の服薬指導に対して苦手意識をもっていましたが、今回のセミナー受講でその意識が変わった」、「投薬・服薬指導に対し、少しだが自信が沸いた」、「服薬指導時の要点など注意すべきところが理解できたと思う」、「勉強になった」、「もう少し理解を深めていきたい」、「生活リズムから服用が難しくなっていないかの切り込みは、HIV にかかわらず薬剤師投薬ツールとして使用してみようと思う」などの感想が挙げられた。

D. 考察

アンケート結果から、統計学的有意差は認めなかったものの 3 項目とも平均点が開催後に上昇していたことから、セミナー後には HIV 治療について理解し、服薬指導に自信が付き、HIV 感染者へ服薬指導することへの抵抗が減ったものと考えられた。特に、服薬指導への自信についての変化量が 3 項目中最も大きかったことから、本セミナー開催が薬局薬剤師の抗 HIV 薬服薬指導において有用であったと推察される。今後、HIV 診療拠点病院のみならず薬局薬剤師に服薬指導に関する適切な情報を継続的に啓蒙していくことは、患者により質の高い医療を提供するために重要であると考えられる。そのために、次年度以降は服薬指導改善のための方策や薬局薬剤師との連携のありかたについて、検討を加えていく予定である。なおセミナー開始前から HIV 感染者へ服薬指導することへの抵抗が低い結果であったことは、どのような処方箋も応需している薬剤師ならではの特徴であると推察される。

本セミナーへの参加者は、千葉大学病院の近隣薬局のみならず、東京を含む千葉県下の様々な地域に所在する薬剤師であった。WEB 開催が有効であったと考えられるため、今後のセミナー開催においても広い範囲の地域から参加ができるよう、WEB を活用していくことが有用であると考えられる。

E. 結論

R3 年度に開催した、抗 HIV 薬の処方箋を応需している保険薬局薬剤師を対象としたセミナーは、今後の薬局薬剤師の抗 HIV 薬服薬指導に有意義であった。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

口頭発表

菅谷修平、築地茉莉子、鈴木貴明、猪狩英俊、石井伊都子. 地域連携を目指した抗 HIV 薬在庫情報共有システムの構築と評価. 第 35 回日本エイズ学会学術集会・総会（東京）

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし